

メンバーら(伊丹市で)



市長に要望

新型コロナウイルスの感染拡大で学校の休校が続く中、伊丹市内の母親らでつくる「伊丹市の子どもの未来を考える会」は13日、実施したアンケートを基に、「学校や園から電話やオンラインなどでの寄り添いが必要」などとする要望書を

「学校から子に寄り添って」

診療もドライブスルー

伊丹、尼崎

待合室の密集回避「安心」



車に乗ったままの女児を診察する高野院長(右、伊丹市で)

新型コロナウイルスの感染リスクを減らそうと、伊丹市と尼崎市の医療機関が、駐車場で車に乗ったままの患者を診察するドライブスルー方式での診療を始めた。待合室での密集を避けることができ、感染の危険を心配する利用者から、「安心して受診できる」と好評だという。

(三枝泰子、上野将平)

「こんにちは」「最近、肌はかゆくない?」。伊丹市大鹿にあるクリニック「伊丹たかの小児科」院長の高野勉さん(48)が、施設前の駐車場に止まった市内の主婦、村越陽子さん(42)の乗用車に近づき、後部座席のドアを開けて次女(5)に声をかけ、肌の状態を確認した。



車の窓越しに患者の肌を確認する執行院長(尼崎市で)

病院にはなるべく来ないようにしていた。車のままなら個室もなくいいし、ありがたい」と語る。

同クリニックでは、感染拡大で外来患者が減少。子どもへの保護者が「感染が怖い」などとして来院を控えていたことが分かり、不安を解消するため、高野さんが「ドライブスルー外来」を発案した。患者は平日と土曜日の診療時間併にインターネットなどで予約し、車でクリニック前の駐車場(13台分)に着いて電話をすれば対応してもらえる。

4月24日の開始以来、希望者は増え、1日の外来患者の半数近くが利用することもあるという。高野さんは「予防接種や採血などは院内で実施しなければいけないけれど、一般的な診療は車に乗ったままでもできる。患者さんの安心のために役に立てれば」と話す。

◇ 尼崎市大庄中通の診療所「しきょう循環器内科皮膚科」でも、平日の午後3〜4時に施設前の駐車場(15台分)で、ドライブスルー方式での診療を実施。院長の執行秀弥さん(34)が車の窓越しに脈拍を確認したり、聴診器を当てたりして、薬も処方する。隣に薬局があり、スムーズに薬を受け取ることが出来る。

小学1年の長男(6)の腹痛を診てもらいに来たという尼崎市に住む女性(拍)は「待合室には入りたくないけれど、先生には診てもらいたかった」と、ほっとした顔を見せた。症状によっては、院内での診療に切り替えるが、執行さんはドライブスルー診療について「予想以上に反響がある。いつも使っている薬が切れた時、医師にちょっと相談したいと思う患者は多い。これからも続けたい」と語った。

が66%と最も多く、「プリント(課題)の配布」が56・4%と続き、学習の遅れを心配する回答が多かった。また、「オンラインでのホームルーム」(41・7%)、「担任からの電話」(22・5%)といった離れ合いを望む声も目立った。

子どもに対する心配事は、運動不足(86%)が最多。保護者自身については、ストレスを感じることが多い。

尼崎市議報酬 10%削減の方針

尼崎市議会(定数42)は14日の災害時連絡会議で、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、7月から12月まで議員報酬を10%削減する方針を全会一致で決めた。